

発行者 島田療育センター
院長 木実谷 哲史

平成27年度 地域療育等支援事業 実施報告

(社会福祉士 市川 香織)

在宅心身障害児(者)やその家族の地域生活を支援することを目的とし、身近な地域で療育指導、相談等を受けていただけますよう、東京都から受託、実施している事業です。平成27年度の実施状況を報告します。

【訪問療育等指導事業／外来療育等指導事業】

障害を持つかた、または発達上のご心配のあるご本人、あるいはご家族に対し、専門職がご相談に応じる事業です。スタッフがご家庭等へ伺う訪問相談と、ご本人、あるいはご家族に当センターへお越しいただく療育相談があります。

今年度は、0歳～就学前後のお子さんのご利用が多く(表①)、47件のご相談に医師、看護師、PT、OT、ST、SWが対応しました(表②)。ご利用者の主な居住地は多摩で、その他近隣市からも複数ご利用がありました(表③)。

訪問相談では、昨年度新たな取り組みとして、外部公共機関にて“OT等による姿勢や体幹についてのお話と個々へのご相談の会”を年2回、“ST等による言葉の発達についてのお話と個々へのご相談の会”を年2回実施いたしました。今年度も本内容は継続する予定です。

また、NICU等の入院生活から在宅へ移行される方々へ「在宅における生活の基盤づくり」の支援として、ご家庭に専門家等が訪問させていただくこともありました。今年度もこの様なご相談を積極的にお受けしていきたいと考えています。

一方療育相談は、セブンクローバーでの幅の広い相談対応と外来受診の待機時間の短縮に努めた結果から、昨年度は対応件数が減少しました。

【施設支援一般指導事業】

地域でお暮らしの障害のあるかたを受け入れている通所施設の職員様のご相談に応じる事業です。現場での対応の工夫、配慮などを助言させていただいています。スタッフが施設へ出向く訪問形式と、施設の方に当センターへお越しいただく来所形式のご相談方法があります。

平成27年度は、69か所の施設からの延べ110件のご相談に対応させていただきました。昨年同様、今年度も年度始めと行事の多い秋口は実施が少なく、夏休み前後と年末年始に実施が集中し(図①)、施設種別では小学校、保育園、幼稚園の順でご利用が多くありました(表④)。職種別では心理職やST、次いでOTの対応が多く、発達全般やコミュニケーション、ことばや口腔機能の発達、運動機能や姿勢・体幹に関するご相談に対応しました(表⑤)。

同施設からの複数回のご利用希望に関しましては、概ね年3回程度のご利用に留めていただき、多くの施設に広くご利用いただけますようご協力をお願いしていますが、ご事情がおありになる場合にはご相談させていただきますので、お気軽にご連絡ください。また助言・指導させていただいた内容は、各施

設にて職員様間で(時にはご本人・保護者の方々と)共有していただき、さらには他の児童・生徒、利用者様へ活用・応用したり、クラス運営として集団全体に導入したりする等、“その後につなげていく支援”を心掛けていただくこともお願いしています。

平成9年度より受託、実施している当事業は、周辺地域へ広く周知されてきたことやご利用者のエリアが拡張していることにより、南多摩5市以外からもお問い合わせをいただくことがあります。遠方からのご相談には、来所いただいてのご相談対応やお近くの相談機関等をご紹介させていただくこともありますが、今後ともスタッフ一同尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

* 本事業のご利用については、本誌4面をご覧ください。

※PT：理学療法士 OT：作業療法士 表② 訪問/外来療育等指導事業の対応職種延べ数(人)
ST：言語聴覚士 SW：社会福祉士

表① 訪問/外来療育等指導事業の
対象児(者)年齢(件)

0-2歳	2
3歳 年少児	8
4歳 年中児	13
5歳 年長児	9
6-8歳 (小・低学年)	12
9-11歳 (小・高学年)	2
12-14歳 中学生	0
15-17歳 高校生	0
18歳以上	1
合計	47

医師	看護師	PT	OT	ST	心理	保育士	SW
3	2	2	40	24	0	1	45

表③ 訪問/外来療育等指導事業の相談者居住地域(件)

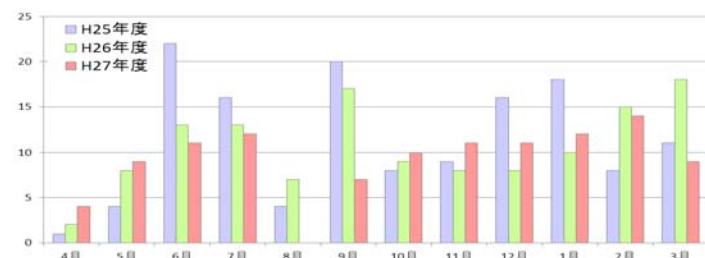
多摩	八王子	町田	稲城	日野	その他	合計
19	11	5	4	5	3	47

表⑤ 施設支援一般指導事業の派遣職種延べ数(人)

医師	看護師	PT	OT	ST	心理	SW	その他
0	4	8	11	40	54	107	2

表④ 施設支援一般指導事業の施設種別・市別毎の実施数(件)／実:実施施設数、延:延べ実施数

	多摩市		八王子市		町田市		稲城市		日野市		その他		合計	
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
特別支援学校	1#	2#	1#	1#	4#	0#	0#	1#	2#	0#	0#	4#	9#	
保育園	6#	12#	5#	9#	7#	8#	0#	0#	1#	2#	0#	0#	19#	31#
幼稚園	5#	12#	4#	5#	2#	2#	0#	0#	1#	1#	0#	0#	11#	22#
小学校	6#	10#	9#	14#	3#	4#	1#	1#	3#	3#	1#	1#	24#	30#
中学校	5#	8#	2#	7#	0#	0#	0#	0#	0#	0#	0#	0#	7#	10#
障害児(者)機関	0#	1#	1#	2#	1#	5#	0#	0#	0#	0#	0#	0#	2#	6#
その他(学童舎)	0#	0#	0#	0#	2#	2#	0#	0#	0#	0#	0#	0#	2#	2#
合計	23#	44#	22#	31#	16#	25#	1#	1#	6#	8#	1#	1#	69#	110#



図① 施設支援一般指導事業の月毎の実施数の分布(施設)

第15回 島田療育センター公開シンポジウム

地域で共に生きる

～重度の心身障害のある方への地域支援～

今年で15回目を迎える公開シンポジウムは2月7日、当センター厚生棟にて、多摩市・町田市・東京都重症心身障害児(者)を守る会・社会福祉法人ボワすみれ福祉会からの後援、読売光と愛の事業団からの後援と助成をいただき開催されました。今回は、「地域で共に生きる～重度の心身障害のある方への地域支援～」と題して、「障害児者とその家族がその人らしく生活していくための支援、支援体制をどう考えていくか」ということをテーマに取り上げました。

基調講演は様々な取り組みを行っている社会福祉法人 むそう理事長 戸枝陽基氏にお願いしました。1時間という時間が短く感じた講演では、制度を繋ぎ合せながら施設運営を行うことで新しい形が見出せるということや、障害の領域を超えての人材発掘に力を注いでいること、障害の重い方と直接関わるスタッフを大切に“育てる”という考えに感銘を受けました。

話題提供として、社会福祉法人ボワすみれ福祉会花の郷看護師の関根まき子氏からは、花の郷の取り組みや理念、心がけていることをお示しいただきました。多摩市の自立ステーションつばさを利用されている杉山公介さんは、iPadを使った

コミュニケーション手段を用い、自立に向けて自らの世界を広げていることをお話していただきました。お母様の杉山佳子様は、“公介らしい自立をめざせばいい”と子どもを優しく見守っていくこと、どんなに重い障害があっても色々な人たちとのふれあいが人を成長させるとお話していただきました。当センター医務部副部長の大瀧医師は、訪問事業の担当医という視点から、医師だけではなく担当している専門職が各々の視点を生かしながらご本人やご家族、介護する方にも配慮できるような在宅支援を構築していきたいと語りました。

まとめとして、副院長の有本医師は、無力感にとられるのではなく、“まずは行動してみようという勇気”と“根拠のある希望”が前に進んでいくために必要だと締めくくりました。“地域支援を盛り立てたい”というそれぞれの思いが重なり、力が宿ったシンポジウムになりました。

(社会福祉士 湯本 和秀)



基調講演
戸枝陽基氏



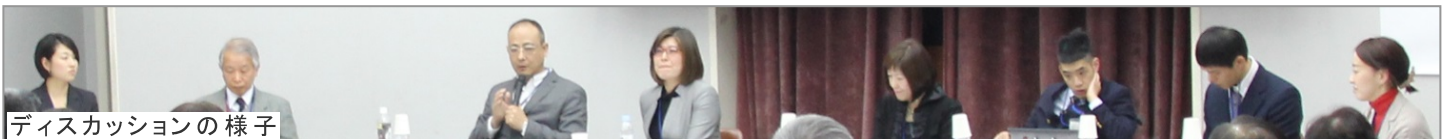
左から
杉山佳子様
杉山公介氏
谷本涼介氏



関根まき子氏



大瀧潮医師



～ 派遣事業・相談事業を通じて ～

地域機関とのつながり

社会福祉法人 ボワすみれ福祉会
花の郷

(看護主任 関根 まき子氏)

花の郷は、町田市にある生活介護事業です。「①送迎保障は通所保障、②注入食・形態食を含む安全でおいしい給食、③豊富な作業・活動支援、④医療的ケア、⑤連携」が当事業所の特徴です。そして、医療・福祉の専門職の職員集団ではなく、様々な人生経験・職業経験をしてきた人や子育て中、大学卒業、など多くの支援者が利用者と同じ向き合い寄り添っています。

島田療育センターの派遣事業・相談事業は、平成22年度から利用しています。利用者に寄り添うためには、まず「利用者を知りたい」という気持ちとその学び、そして「関わり方」を共有する必要があります。利用者との言葉でのコミュニケーションは限られています。この事業を通して、職員一人ひとりが利用者を主体にして、「何が困っているのか」「どうしたいのか」を

利用者と一緒に考えます。理学療法士に、寝ている姿勢、寝返り、体操、歩行介助など姿勢や運動、日常生活動作全般の相談をし、自分では手足が動かせない方のマッサージの方法や、側弯症がある方の安全な歩行や体操など、助言をいただいた時に写真を撮り、誰でも行えるよう支援マニュアルを作成して職員で共有しています。心理判定員には、ABC分析の仕方や支援した結果をまとめる行動記録、利用者の気持ちや支援者としての考え方、環境作りなどを相談し、利用者の変化だけではなく、支援のあり方として職員の振り返りができるように、観察と記録をとり続けていくよう努めています。

この派遣事業・相談事業とのつながりは、利用者にとって地域で豊かに暮らすための「顔の見える関係性づくり」として、安心して花の郷で生活していただくための大切な取り組みです。特に、「民間の福祉」は「安心」のニーズに対して、支援者としてどのように支援すればよいのかを専門職から学べる機会が



必要です。それが集合教育だけではなく、支援の現場で利用者と職員の生の(心の)声と思いをくみ取っていただきながら実践として助言を得ることは、とても貴重です。これからも、よろしくお願いたします！！

発達支援センター (セブクローパー) ST科講習会



言語聴覚療科では、発達の偏りや遅れ、ことばやコミュニケーションの心配を抱えたお子さんのご家族や、地域の関係機関職員の方々を対象に、ことばやコミュニケーションに関する知識や療育の視点を深めていただくという主旨のもと、平成26年度から講習会を企画、開催しています。今回は、1月29日に開催した「ことばとコミュニケーションの発達について～発音(構音)のはなしを中心に～」の講習会についてご報告いたします。

お子さんのことばがはっきりしない、聞き取りにくいという症状は、「せっかく話してくれた内容を分かってあげられない」というもどかしさを感じ、いつ治るのかと、とても心配になると思います。講習会では、発音にも発達の過程がありことばの発達と関係しているということ、ことばの発達は心やからだ、コミュニケーションの発達とも関係が深いということをお話させていただきました。その後、構音という実際に音を作る過程を確認しました。私たちは日本語の音を、どのように、どの部分を動か

して音を出しているのか、実際に口を動かし、声を出しながら体験していただきました。それから、構音の誤り方の特徴や正しい構音を支える条件などについてご説明し、ご家庭で取り入れられる遊びなどを紹介しました。

今回はパルテノン多摩内のアトリエをお借りし、当日は20名の保護者の方がご参加くださいました。ご参加された方からは、「専門的な内容も学べた」「日常でできることを知れて良かった」という満足の感想をいただきました。ただ、内容に関して「難しい」という回答もあり、構音という分野をご家族にわかりやすく説明することが今後の課題となりました。

今年度もことばやコミュニケーションの発達、ことばやコミュニケーションに関する支援について講習会を開催する予定です。ご興味がありましたら、是非ご参加ください。

ことばとコミュニケーションの機能 (言語聴覚士 志村 みさと)

(講義より抜粋)

音楽療法、運動療法の会

ゆるゆら会 ~音楽療法~
親子で楽しくからだをうごかそう

平成27年度も前年度に引き続き、一般公益社団法人あゆみの箱より助成金をいただき、重度心身障害のお子さんとその保護者を対象とした親子参加型の活動として、『ゆるゆら会(音楽療法)』を6回、『親子で楽しくからだを動かそう(運動療法)』を2回実施しました。

『ゆるゆら会』では、音楽療法士の先生2名にご協力いただき、ゆったりと1時間を過ごします。ピアノの音に合わせてからだをさすって温めるところから始まり、次にトーンチャイムやフィンガーシンバル、先生手作りの鈴などを使い、音色を楽しみます。音楽に合わせながら、スカーフに包まれる感覚を楽しむ時間もあります。参加者からは、「普段触る機会がない楽器を使うことができ、子どもも楽しんで」「親もピアノの音に癒されます」「子どもの前回とは違う様子がみられて、よかった」という感想をいただきました。



『親子で楽しくからだを動かそう』では、

上級障害者スポーツ指導員の先生にご協力いただき、1回目は小学生を対象に行いました。8月でしたので、浮輪を使ったストレッチや、パラバルーンの下に寝転がって保護者が上下左右にゆらしたり、みんなで中に入ったりする活動を行いました。2回目は就学前のお子さんを対象として、リンパマッサージから始め、テニスボールを使ったマッサージを保護者の方にも体験していただきました。活動で使った鈴入りの風船は、毎回お土産になります。参加者からは、「家でも実践できそうなことがたくさんあった。」「子どもがリラックスしている様子だった。」という感想をいただきました。音楽やからだを使うことを通して、様々な刺激や親子の触れ合い、お友達、保護者同士の交流のきっかけになっている会だと感じております。

今年度も実施が決まり、先生方も皆様にお会いできますことをとても楽しみにしていっぱしゃいします。詳細が決まり次第、ホームページ等でご案内いたします。みなさまのご参加をお待ちしております。

(社会福祉士 林 貴美子)



島田療育センターイベント情報
メルマガ会員
募集中!



①空メールを送信

左のQRコードを読み取り、空メールを送信してください。

②確認メールに返信

リクエスト確認メールが届きますので、そのまま返信してください。(Googleグループの機能を利用しているため、Googleからのメールが届きます。)

③登録完了!

参加完了のメールが届き、登録完了となります。

おしらせ

宿題お助け♪ 「工作の会」

夏休み特別企画！今年も「工作の会」を開催します。夏休みの自由工作としても使えるかも？作業療法士と一緒に工作をしてみませんか？

対象者：小学生（当センターで訓練、指導、診察を受けているお子さんのみ）

日時：7/23(土) 10:00～

定員：10名程度

申し込み締切：7/8(金)（定員に達し次第受付終了）

参加費：1620円（税込）

※ 島田療育センター(多摩)で実施予定のイベントです。詳しくはホームページをご覧ください。

「ティーチャートレーニング」

近隣地域の先生方を対象に、発達障害など特別なニーズのあるお子さんへの具体的な支援方法を検討する連続講座を開催します。講座では、応用行動分析の視点からお子さんの行動を理解し、特性に合った対応方法を学びます。またグループワークで事例検討を行い、お子さんへのより良い対応について先生方で話し合いを深めていただきます。

講義の内容、申込先など詳細はホームページをご参照ください。

クラスのお子さんへの支援について、一緒に考えていきましょう！皆様のご参加をお待ちしております！

日程：8/2(火)～4(木)（3日間の連続講義です）

時間：10～17時

申込：7/15(金) 締切

「合同学校説明会」

各学校のブースを設けて、個別に相談ができる会を企画しました！

日時：8/7(日) 13:30～16:00

参加費：無料

対象者：高等学校に進学を希望されている方やその保護者、各関係機関の方々

参加校予定校：通信制高校、サポート校、都立特別支援学校（高等部）など15校程度

親子であそぼう♪ 「にこにこグループ」

運動や言葉の発達など子育てに関する専門スタッフが、親子参加型のグループ活動を通じてお子さんとのより良い関わり方を一緒に探していきます。

対象者：発達に心配があり、自立歩行ができる2歳～年少クラス未満のお子さんとその保護者

日時：第1・3・5木曜日/午前10:30～11:30

期間：前期:(H28)6月～10月、後期:11月～(H29)3月

*各期全8回を予定（途中参加可能）

定員：10組程度、定員に達し次第締切

参加費：1回につき3,240円（税込）

*各期ごとに登録費4,000円、教材費540円が別途かかります。

今年もやります！ 「わいわい祭り2016」

9/10 (土)

今年度も多くの方々にご協力をいただきながら、地域に開かれた島田療育センターを目指して、年に一度のお祭りを開催させていただきます。どうぞお気軽にお越しください。楽しいイベントと締めくくりの花火をご用意して、みなさまのお越しをお待ちしております。詳細が決まりましたら、ホームページ等でご案内いたします。

地域療育等支援事業のご案内

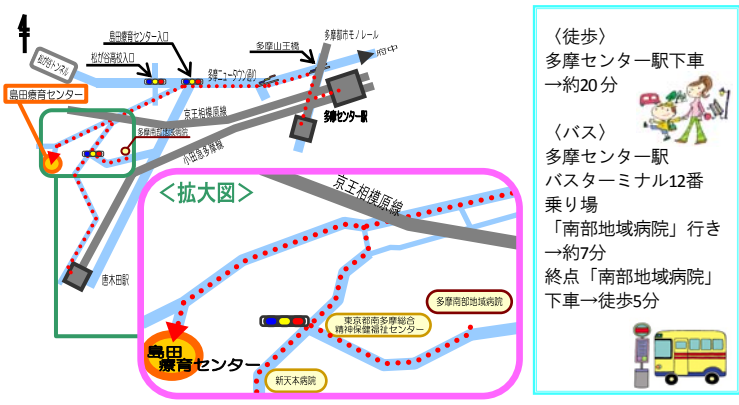
①訪問療育等支援事業（訪問相談）
地域施設や家庭等に赴いて、健康診査や介護指導、在宅生活のご相談に応じます。

②外来療育等支援事業（療育相談）
ことばや運動、コミュニケーション等の発達にご心配をおもちのご本人あるいはご家族のご相談に応じます。

③施設支援一般指導事業
発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。

費用は 無料です

窓口は「支援部」 TEL 042-374-2101(直通)



編集後記

子どもも大人も野菜が苦手だったり、十分な量を取れていなかったりする方は少なくないと思います。米コーネル大学の実験で、野菜料理にユニークな名前をつけると子どもの完食率が大幅に上がった、という面白い実験結果があります。学校の食堂でニンジンを使った新メニューを提供した際に、単に“本日の料理”とした時より“X線透視ニンジン”とメニュー名を工夫した時の方が、完食率が2倍になったそうです。“病は気から”に通ずるようなお話ですね。また野菜や果物をスムージー（ミキサーでジュース状）にすると野菜が食べやすくなり、量も確保しやすくなります。子どもと一緒に色々な野菜をミックスして作ると楽しみながら野菜が取れますし、大人も一緒に野菜不足が解消できて、一石二鳥かもしれませんね♪（市川）

編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部

住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1

電話：042-374-2071（代表）

E-mail：Info-room@shimada-ryoiku.or.jp

URL：http://www.shimada-ryoiku.or.jp